

7年連続で医学部定員増、9,069 人に。 26 年度に増員される入試方式はこれだ！

筑波大 - 医学類が 9 人増、弘前大 - 医(医)が 5 人増

旺文社 教育情報センター 平成 26 年 1 月

平成 26 年度で 7 年連続となる医学部医学科（以下、医学部）の入学定員（以下、定員）の増加について、25 年 12 月に国立 4 大学・私立 1 大学から計 20 人の申請が出され、認可された。また、申請期間が 26 年 1 月 17 日まで延長され、さらに私立 3 大学（埼玉医科大・東海大・東京医科大）から計 8 人の追加申請があった。これで、医学部を設置している 79 大学の定員の合計は 9,069 人（申請中を含む）の過去最多となったが、申請大学数および増員数はこの 7 年間で最少だった。

1 月中旬現在、定員増を行った各医学部（申請中を含む）の具体的な増員内容は全て明らかになっている。ここでは「どの入試方式が何人増えるのか」を一覧にまとめて紹介する。

今回の定員増は 22～25 年度と同様、文部科学省により、①地域医療への従事を条件とした奨学金、選抜枠の設定（地域枠）、②研究医養成（研究医枠）、③歯学部定員振替（歯学部振替枠）、の 3 つの枠が用意され、各大学はそれぞれの目的に応じて申請、認可を受けている。①は入試の段階で地域枠を設定する大学と、入学してから希望者を募って選考・選抜する大学がある。②③は入試に特別な選抜枠が用意されるわけではなく、いずれかの入試方式にその分の募集人員が増加される。

今回の定員増（1 月中旬現在）では、①が 6 大学 24 人増、②が 2 大学 4 人増、③は申請がなかった。大学別で最も規模が大きいのは筑波大 - 医学類の 9 人増だ。

過去 7 年間で定員増の規模が最小となった理由としては、各都道府県の奨学金増額や、各大学の教員確保・設備拡充が限界に達しつつあることがあげられる。特に、基礎医学の研究・教育を担う教員の不足は問題視されており、27 年度以降に東北地方の医学部新設が認められれば、さらに全国的な教員争奪の激化が懸念される。このため大学側からは、地域枠よりも、教員医師養成を目的とした研究医枠の拡大（「1 大学につき原則“累積 3 人”」の上限が設定されている）を求める声が聞かれる。

次ページに定員増を行う医学部について、増加数とその内訳（上記①～③）、地域枠の内訳（どの都道府県で何人募集か）、研究医養成の連携先の大学を示した。また、認可前に各大学から公表された募集要項には、定員増以前の募集人員が記載されているので、今回の定員増によってどの入試方式の募集人員が変更されたかを太字で示した（「募集要項の段階→定員増の後」で比較）。さらに、定員増を行わない医学部についても、25 年と比べて募集人員の変更がある場合は「25 年→26 年」で示した。すでに出願校を固めている人は多いだろうが、最終決定の参考資料として活用してほしい。

なお、弘前大 - 医(医)、筑波大 - 医学類では、募集要項段階における変更もあわせて 25 年と比べる必要がある。弘前大 - 医(医)では、今回の定員増（5 人増）で前期を 65 人→70 人に増やしたが、すでに募集要項の段階で 25 年に比べ 67 人→65 人に減らしていたので、25 年との比較でいえば、前期日程は 67 人→70 人で 3 人増えたことになる。同じように、筑波大 - 医学類は今回の定員増（9 人増）で前期を 63 人→72 人に増加したが、すでに募集要項の段階で 25 年に比べ 65 人→63 人に減らしていたため、実際には、前期日程は 65 人→72 人と 7 人増えた勘定になるので、注意してほしい。

◆平成26年度の医学部医学科の定員増と募集人員の変更(1月中旬現在)

大学-学部(学科)	26年度の定員増 (編入学含む)	定員増の内訳			備考(①地域枠の内訳/②研究医養成の連携先/③歯学部 の定員減/26年入試の募集人員の変更<太字は今 回の定員増による変更>、など)
		①地域枠	②研究医 養成	③歯学部 から振替	
弘前大-医(医)	127人→132人	5人			①青森5人/前期67人→ 65人→70人 (青森県定着枠17人→15人→20人)、セ試課すAO40人→42人(青森県定着枠2人を移行)
秋田大-医(医)	125人→127人	2人			①秋田2人/地域枠推薦(セ試課す)20人→22人
山形大-医(医)	125人(変更なし)				前期95人→90人、セ試課す推薦20人→25人
筑波大-医学類	117人→126人	9人			①茨城9人/前期65人→ 63人→72人 (地域枠入試9人を新規実施)、地域枠推薦(セ試免除)11人→13人
新潟大-医(医)	127人(変更なし)				前期87人→85人、セ試免除推薦35人→37人(地域枠2人を移行)
神戸大-医(医)	115人→117人		2人		②研究医養成=福井大・兵庫医科大と連携/前期 75人→77人
鳥取大-医(医)	110人(変更なし)				前期60人→65人、後期25人→20人
岡山大-医(医)	120人(変更なし)				前期100人→103人(うち一般枠88人→103人)、後期廃止、セ試課す推薦(12人)を新規実施(地域枠を移行)
広島大-医(医)	120人(変更なし)				後期25人→22人、セ試課す推薦(ふるさと枠)17人→20人、セ試課すAO3人→5人
九州大-医(医)	111人(変更なし)				前期96人→111人、後期廃止
長崎大-医(医)	121人(変更なし)				セ試課すAOを廃止、セ試課す推薦30人→40人
琉球大-医(医)	112人(変更なし)				前期75人→70人、セ試課す推薦7人→12人
◇札幌医科大-医	110人(変更なし)				前期で「一般枠40人→20人、北海道医療枠35人→55人」
☆埼玉医科大-医	121人→125人 (申請中)	4人			①埼玉4人/一般 後期40人→44人
☆東海大-医	113人→115人 (申請中)	2人			①神奈川2人/一般A方式60人→70人、 神奈川県地域枠入試(セ試利用)3人→5人
☆東京医科大-医(医)	*118人→120人 (申請中)	2人			①山梨2人/一般 入試70人→72人
☆大阪医科大-医	110人(変更なし)				セ試利用後期(5人)を新規実施、一般前期90人→85人
☆関西医科大-医	112人(変更なし)				一般後期(7人)を新規実施、一般前期87人→80人
☆兵庫医科大-医	110人→112人		2人		②研究医養成=神戸大・関西医科大・兵庫医療大・関西学院大と連携/一般 入試75人→77人

(注1)◇は公立、☆は私立。定員増は原則として編入学定員を含む。ただし、東京医科大の「定員増」欄の*は、募集人員を示す。

(注2)備考欄のうち、①は地域枠の連携先の都道府県、②は研究医養成の連携先の大学等を示す。

(注3)備考欄中、26年入試の募集人員の変更については、セ試=センター試験、(以下、国公立大について)セ試免除=センター試験を課さない推薦・AO、セ試課す=センター試験を課す推薦・AO、前期=前期日程、後期=後期日程、の略。

(注4)埼玉医科大-医、東海大-医、東京医科大-医(医)の定員増は認可申請中。